

令和7年度 実践研究事業
(そにとキャンプ・冒険のキャンプ)

- [主 催] 国立曽爾青少年自然の家
[後 援] 奈良県教育委員会、名張市教育委員会、
宇陀市教育委員会、京都市教育委員会
[期 日] 令和7年9月13日(土)～9月15日(月)
[対 象 者] 発達に特性がある児童生徒や不登校など集団(学
校)生活に困り感のある小学校4年生～中学校1年
生の児童生徒とその保護者
[参加/募集] 児童12名(1名日帰り、1名欠席)／13名
[担 当] 森岡亮平・増田学(企画指導専門職)・菱川裕輝(企画指導専門職付主任)・
大向満(主幹兼事業推進係長)・百田恵美(看護師)



1 趣 旨

自己決定する機会や負荷のかかる課題を乗り越える体験から達成感を味わえるようにする。

2 ねらい

2泊3日のキャンプを通して、自己決定する機会を設け、負荷のかかる課題を乗り越える体験から達成感を味わう。チームで活動し、一人では難しいチャレンジでも、チームで乗り越える。

3 プログラム展開

9/13 (土)	10:30	11:00	12:30	13:10	14:00		19:10	20:30	21:00	
	受付	始まりの会	昼食	ベッドメイキング	野外炊事		入浴	振り返り	就寝	
9/14 (日)	6:30	7:20	9:00	9:30	16:00	17:00	18:20	19:00	20:00	21:00
	起床	朝食	赤目滝 水族館	ハイキング スタート	紅葉亭着	自然の家 帰所	夕食	入浴	振り返り	就寝
9/15 (月)	6:30	9:00	12:30	13:00	14:00	14:30				
	起床	選択 プログラム	昼食	保護者 懇談	おわりの会	解散				

4 活動の様子



5 ふりかえり(子どもアンケートより・趣旨やねらいに対してのふりかえり)

・子どもたちからは、「楽しかったし、色々なことにチャレンジした。」「登山でたくさん歩いたことを頑張った。」「(野外炊事で)火をつけるのを頑張った。」「のこぎりで木を切ったことを頑張った。」「自分が困ったとき、ボランティアが色々教えてくれたし、たくさん応援してくれた。」「ちゃんこなべ作りが楽しかった。」「これからもみんなと仲良くしたいです。」など、冒険のキャンプの中で様々なことにチャレンジすることができた。また最終日の選択プログラムでは、3つのプログラムの中から自分が取り組みたいものを選択し、それぞれで楽しむことができていた。

・キャンプをふりかえると、子どもたちは冒険のキャンプの中で大きなキーワードになっている「チャレンジ」をすることができていたようだ。1日目の野外炊事では、班のメンバーで自然とつながる様子がみられた。2日目のハイキングでは、8kmを超えるコースをみんなで励ましあいながら全員で乗り越えることができた。3日目の選択プログラムでは、様々なプログラムの中から自分がやってみたいプログラムに取り組んだ。子どもたちは冒険のキャンプの中で様々なチャレンジをし、達成感を得ることができていたようだ。